

老婆心ながら

～校長からの一言～

『あいさつ+1(一言)』を意識してみてはいかがでしょうか。

「中学生になったら、家では全く学校の話しをしてくれなくなった」という声を保護者の皆さんから聞くことがあります。これは、子どもは、成長に伴い親離れの準備（「親よりも友達」という意識の高まり）をし始めたということの意味しており、心配するよりも、むしろ喜ぶべき子どもの変化なのだと思います。親からすれば少し寂しい時期かもしれませんが、誰もが通る道だと思って少し距離をおいて遠目から子どもを見守っていてあげてください。

実は私も、校長として毎日多くの中学生と接していますが、中学生のもなると校長に対し生徒の方から話しかけてくれることはほとんどなく、ちょっと寂しい思いをしています。その部分では中学生の子を持つ親と似た状況かもしれません。（授業を持っていた時は、気軽に話しかけてもらえたのに・・・。）

そんな私が、日頃心がけているのが、『あいさつ+1（一言）』です。話しかけてもらえないと言っても、「おはよう」とか「さようなら」という『あいさつ』については、生徒の方からしてくれることも多いですし、逆に私の方から先にしていくということもできます。私は、そこが会話をするチャンスだと考え、あいさつの後に「元気ですか？」とか「頑張っている？」などの声掛けをするように日頃から心がけています。すると、そこから会話に発展することもありますし、会話にならなくてもその時の反応で、その子の正確や心の様子が何となく分かるような気がします。距離をおいて見守ると言っても、いざとなれば相談に乗れる存在でいなければならないのですから、生徒との距離は少しでも縮めておきたいですからね。

中学生を育てるために大切な距離感、ズバリ『付かず離れず』です。この距離感を保つため、ご家庭においても「おはよう、今日はなかなか起きられなかったねえ」「おかえり、今日は遅かったねえ。何かあったの？」など、「あいさつ+1（一言）」を意識的にしてみteはいかがでしょうか。但し、その際は、子どもから返事が返って来ないからと言って親の方から止めてしまったり、必要以上に返答を期待しないようにしてくださいね。あくまでも、『付かず離れず』です。子どもが親と話したいと思った時に、いつでも話しがし始められる状況を日頃から作っておくことが大切なのですから・・・。